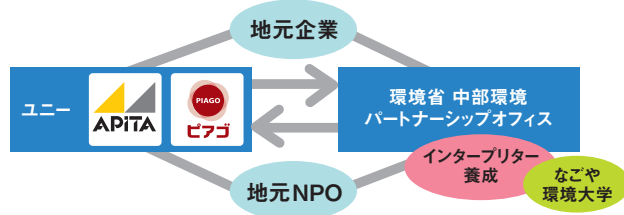


インタープリター養成

市民講座なごや環境大学で「お店探検隊インタープリター」を養成しています。環境にやさしいライフスタイルをテーマに、お店探検やエコ博の案内役になってもらう人を育成しました。



「伝え方」を学びました



エコキッズ応援隊で
エコ博案内役として活躍

EPOC

中部地区を活動拠点とする環境パートナーシップ・CLUB (EPOC) は、行政、大学・研究機関に加え業種や規模の垣根を越えて企業が集まり地域社会で活動しています。「次世代交流分科会」では、子供達が分かりやすく学び、体験する講座を受け持っています。ユニーは「環境にやさしいお買い物」をテーマに高校や小学校、児童館などで講座を開催しました。



名古屋市立本郷小学校



名古屋経済大学高蔵高等学校



名古屋市とだわこどもランド

持続可能な開発のための教育 (ESD) への取り組み

ユニーの目指す「持続可能な社会」を担う子供達に、環境学習や農業体験、自然探検など体験や学習、いろんな人達との交流の場を提供しています。この活動は、国連が進めるESDを踏まえ、環境や社会貢献という要素だけではなく、「食糧問題」や「命の大切さ」をテーマに、子供達が美しい自然の中で幸福に生きていくための「ちから」を身につけてもらいたいとすすめています。

「ESDの10年」最終年の2014年に向けて 未来をつくるための学びあい～お店だからこそESD

ESDは、Education for Sustainable Developmentの略で、持続可能な開発のための教育と訳されています。2005年からの10年をキャンペーン期間とし、普及啓発や実践の仕組みづくりなどが国際的に行われています。そして2014年の最終年会合が愛知県・名古屋市、岡山市で開催されることになり、ESD活動が活性化されつつあります。ESDは、地球の限りある資源をうまく使って、今を生きる人、未来を生きる人が安心して暮らすことのできる社会をつくるための「未来をつくるための学びあい」といえるでしょう。

ユニーは、店舗や販売している商品の生産・流通現場等を活用して多様な環境教育の機会を提供、またCOP10を機に生物多様性を学ぶ体験型環境学習プログラムも実践されています。それも、自社だけでなくNPOや企業、行政と連携しながら、です。まさに「ESD」です。スーパーマーケットには、持続可能な社会づくりのキーワード「環境、経済、社会の調和」を実体験できる機会があふれています。今後、子どもも大人も参加できる学びの場、また学校教育と連携した場の創出を期待します。ユニーのお店には、地域のESD拠点として存在していただきたいと強く思います。



環境省中部環境
パートナーシップオフィス
チーフプロデューサー
新海洋子

● ESDの歩み

1992年

国連環境開発会議（ブラジル/リオ・デ・ジャネイロ）にて、持続可能な開発のための教育（ESD）の重要性をうたった「アジェンダ21」を採択

2002年

持続可能な開発に関する世界首脳会議（南アフリカ/ヨハネスブルグサミット）にて、日本の提案による「ESDの10年」が実施計画に盛り込まれる
第57回国連総会にて、ユネスコを主導機関として「国連ESDの10年」（2005～2014）を採択

2005年

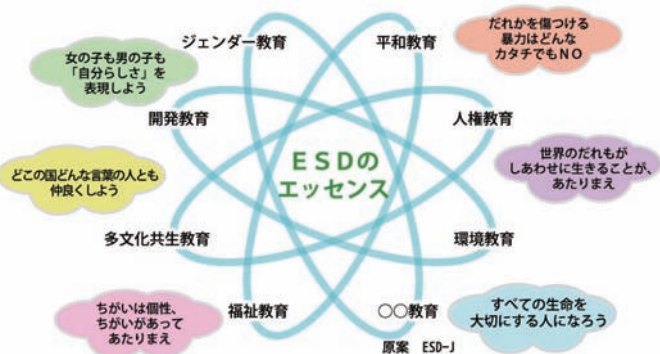
「国連ESDの10年」スタート

2014年

「持続発展教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」（日本/愛知県・名古屋市、岡山市）

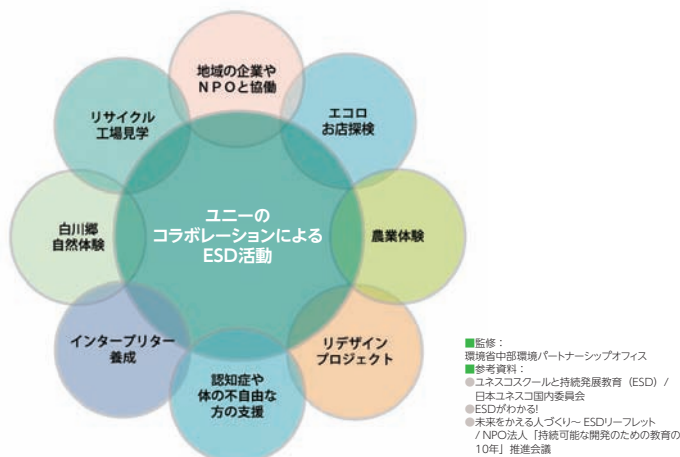
いろんなテーマで！

お店探検隊ではブラジル籍の子供や障がいをもった子供達も参加しています。まさに多文化共生、バリアフリー教育です。また認知症の方や高齢者のお買い物サポート、リデザインプロジェクトによる商品開発や商品販売などを実施。「学び合い」「つながり」がどんどん広がる多様なESD実践を期待します。



いろんな場所で！

日本モンキーセンターやトヨタ白川郷自然学校、リサイクルトイレットペーパーの工場、田んぼ、味噌蔵など、いろいろな場所での学習を展開しています。地域の多様なセクターとのもっと楽しく学べるESD企画を期待しています。



■監修：
環境省中部環境パートナーシップオフィス
■参考資料：
●ユネスコスクールと持続発展教育（ESD）/
日本ユネスコ国内委員会
●ESDがわかる
●未来をかなえる人づくり～ESDリーフレット/
NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議